

平成24年度事務事業評価シート

◎基本情報

事務事業名	外国語指導助手招致事業		担当部署	教育委員会 教育支援室		
総合計画体系			根拠法令 計画など	学習指導要領(H20 3月)『英語が使える日本人』育成のための戦略構想(H14)		
基本政策(大項目)	3	心豊かで多彩な人材を育む鳴門づくり	事業 期間	開始	平成	3年度
政策(中項目)	1	明日を担う教育都市なると			教育行政	▼
(小項目)		教育行政				
施策	01	教育行政の充実				
基本事業	6	教育支援体制の整備充実		終期	未定 ▼	

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 市内幼・小・中学校 児童・生徒						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	異文化を持つ人々を受容し、共生することのできる態度や、英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度を身につける。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	単位
		中学2年生のアンケート結果「外国の人に英語で話しかけられたら」の項目に「英語で答える」と回答する割合		36	37	38	39	%

◎実施結果(DO)

事業実施内容	23年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	訪問システムを見直し、各校への訪問日数確保に努めた。また、中学校区と同じALTにすることで心理的な段差を低くし、小学校で培ったコミュニケーションへの積極性が中学校でも継続するよう配慮している。また、小・中学校でのALT滞在は、原則として1日とし、授業以外の時間(そうじ、給食、クラブ活動等)にも交流が図れるようにした。さらにALTを活用した授業実践の研究を進めた。					
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他					
指標名		22年度実績	23年度実績	24年度目標	25年度目標	26年度目標	単位
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1 幼・小学校訪問日数	323	337	370	370	370	日
	2 中・高訪問日数	437	412	537	580	580	日
成果指標 対象にどのような効果があつたか示す指標	中学2年生のアンケート結果「外国の人に英語で話しかけられたら」の項目に「英語で答える」と回答する割合		36	—	—	—	%
	目標達成率(実績/目標)		100.0	—	—	—	%

コスト分析		22年度実績	23年度実績	24年度	25年度	26年度	単位
事業費 (財源内訳の合計)		15,290	15,543	20,016	19,974	21,684	千円
財源内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
一般財源		15,290	15,543	20,016	19,974	21,684	
事業にかかる人件費 (人件費内訳の合計)		6,517	6,517	6,517	6,517	6,517	人
人件費内訳	正規職員(6,517千円/人)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	
	臨時職員等(2,012千円/人)						
総事業費 (事業費と事業にかかる人件費の合計)		21,807	22,060	26,533	26,491	28,201	千円

【事務事業名：外国語指導助手招致事業】

◎平成24年の実施状況(DO)

現在の実施状況	4月からは4名体制、9月からは、5名体制となる。そこで、中学校への訪問日数を増やすと共に、年間2回程度であるが、幼稚園訪問も開始した。目標を達成するには、好奇心旺盛な幼少期から、異文化に直接触れる体験が重要であると考えられている。また、夏季休業日中には、ALTを活用したイングリッシュキャンプを計画。英語への興味・関心を高める機会となることを期待している。
---------	--

◎項目別評価(CHECK)

1.必要性の評価		理由等所見欄
8  /10	<input checked="" type="checkbox"/> ① 廃止した場合に支障が出る。	急速にグローバル化が進む現代社会において、英語力を含むコミュニケーション能力の育成は、重要な課題である。文部科学省から示された新学習指導要領にも、外国語教育、国際理解教育の充実が挙げられている。
	<input checked="" type="checkbox"/> ② 施策 教育行政の充実 の達成につながる事業である。	
	<input checked="" type="checkbox"/> ③ 税金で実施するにふさわしい事業で、市民への説明責任も果たせる。	
	<input checked="" type="checkbox"/> ④ 市民の基本的な生活の維持・確保に必要な不可欠な事業である。	
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤ 法令により実施することが義務づけられている事業である。	
2.有効性の評価		理由等所見欄
10  /10	<input checked="" type="checkbox"/> ① 市民生活上の課題解決に貢献している。	毎年行っている意識調査結果を全国平均と比較すると、本市の児童・生徒のコミュニケーションへの積極性は、かなり高くなっている。23年度の中学2年生は、「外国の人に話しかけられたら」の問いに「英語で答える」が36%であったが、24年度6月の中学3年生での結果は、43%と、意識が向上していた。また、中学3年生の74%の生徒が「英語の授業が楽しい」と答えている。その理由の多くは、ALTとの交流を挙げている。
	<input checked="" type="checkbox"/> ② 行政内部の管理上の課題解決に貢献している。	
	<input checked="" type="checkbox"/> ③ 事業目標が達成できるような事業内容になっている。	
	<input checked="" type="checkbox"/> ④ 事業対象は適切である。	
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤ 成果目標が達成され、市民に具体的に説明できるような効果があがっている。	
3.効率性の評価		理由等所見欄
10  /10	<input checked="" type="checkbox"/> ① 事業実施手法は適切である。	ALT一人あたりにつき、470万円程、国からの交付税措置がとられている。ALTの報酬旅費等すべて、その中で賄うことができる。
	<input checked="" type="checkbox"/> ② 事業費を削減する余地はない。	
	<input checked="" type="checkbox"/> ③ 作業手順の改善などによる人件費削減の余地はない。	
	<input checked="" type="checkbox"/> ④ 受益者負担や補助金の割合に問題はない。	
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤ 効率性向上の余地はない。	

◎今後の方向性(ACTION)

課題等	「世界に羽ばたく鳴門の子ども」を育成するために、外国語教育を一層推進していく必要がある。そのための環境整備も重要である。とりわけ、ALTの有効性は、児童生徒の意識調査からも顕著であり、尚かつ、地域住民との交流も深く、鳴門市の国際化に大きく貢献している。ただ、さらに英語を使ったコミュニケーション能力を伸ばすため、文科省が示す「週1時間ネイティブスピーカーが入る授業」を中学校で実現するためには、ALTのあと1名の増員が望まれる。また、ALTを活用した効果的な授業の在り方について、小中学校が連携しながら、実践研究を進めていかなければならない。
-----	---

今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	2
--------	------	-------	--------	------	---

↓「廃止」・「要改善」・「拡充」の場合は以下の欄に記入してください。

今後の改革案	実施予定時期	未定	▼	▼
	どのように改革するのか	現在招致しているALTの活用の仕方を見直し、改善していく。ALTという人的財産を生かし、英語や異文化への興味・関心が高まるような事業も積極的に企画していく。さらに、コミュニケーション力、英語力育成への環境を整えるため、あと1名の招致に向けて、その効果を研究しつつ、受入体制を整えていく。		